

今回は、延岡市で開催した「宮崎ひなた集落研修交流会」の様子や、「ひなたまちづくり応援シート」をきっかけに地域の将来について考える取組について紹介します。

「宮崎ひなた集落研修交流会」を

開催しました！

令和7年2月7日（金）@野口遵記念館

テーマ『地域の魅力を共有する集い』

ひなた集落研修交流会とは？

集落間の交流と住民主体の意欲的な集落活動を促進することを目的として、集落の維持・活性化の取組について学んだり、参加者同士で意見交換を行う集いです。

基調講演

「中山間地域集落の自治とこれから」 ～令和時代における「ひなた集落」が果たす社会的役割と機能～

宮崎大学地域資源創成学部の桑野教授に、以下の3つの視点から『中山間地域集落の自治とこれから』をテーマにご講演いただきました。

- 視点① 中山間地域の集落活動は非効率？
- 視点② 中山間地域の集落活動には多様性が欠如？
- 視点③ 中山間地域の集落活動の効果は限定的？

視点①では、中山間地域の信頼・つき合い・社会参加についてお話があり、効率的・効果的なまちづくりを進める事例として、西米良村での取組の紹介がありました。

視点②では、多様性の確保には、「社会参加の多様性」を補完・補足する機能と地域の伝統・個性などの「地域社会の多様性」を保全・涵養する機能といった中山間地域の2つの機能が必要といったお話がありました。

視点③では、人口減少・高齢化が著しい中山間地域等における「集落生活圏」維持の重要さや、移住・定住者が地域にもたらす効果のお話がありました。

その他、関係人口の大切さについてもお話いただきました。



宮崎大学 地域資源創成学部 桑野教授

基調講演後は、各地域の事例発表を行いました。

事例発表①

椎葉村日添地区

「焼畑がつなぐマチムラ交流の輪&この遺産を次世代につなぐために」

- ・平成20年に大小様々な組織と密接に連携し活動する「焼畑蕎麦苦楽部」を結成。
- ・年間300人前後の体験や学習を提供。
- ・体験活動のほか、商品開発と販売にも力を入れている。
- ・子どもたちが帰ってきたいと思う集落づくりのため、地元の尾向小学校で昭和63年から焼畑体験学習を行っている。実際に焼畑をしたいから将来は地元に戻ってきたいという子どもがいるなど、ふるさと教育に寄与。
- ・交流・関係人口の増加に向けた取組として、豊かな森づくり活動を展開している。



焼畑蕎麦苦楽部 代表 椎葉 様

事例発表②

美郷町渡川地区

「私たちが地域のためにできること」

- ・小中学校の閉校や地元商店の閉店、地区の若者の「渡川ONE」の結成等をきっかけに、婦人部の有志5人が集まり、地域の漬物加工工場を継承し、渡川いこいの郷加工グループ、通称「渡川マンマ」を結成。
- ・平成25年10月から、高齢者の見守りを兼ねた配食サービスを開始。
- ・自主財源確保のため、イベント等への参加や正月向けのおせちなどの加工品の開発、ボランティア活動にも挑戦している。
- ・メンバーが減るなど、後継者の確保が課題だが、パートで対応し、地域に広がりも生まれている。



渡川いこいの郷加工グループ「渡川マンマ」
会長 岩田 様
事務局 松田 様
栄養士 那須 様

事例発表③

串間市本城地区

「多様な主体による地域一体の活動」

- ・本城地区には22の自治会があり、世帯数の少ない小規模な自治会が多いこと、会員の高齢化、子育て世代の流出など、自治会活動の限界を感じていた。
- ・そのため、平成29年から本城地区地域連携組織設立に向けての準備をスタートし、令和3年4月1日にまちづくり協議会「チーム本城」を設立。
- ・自治会主導の組織であり、自治会を土台に、民生児童委員や消防団など多様な19の主体で構成されている。
- ・住民による互助の仕組みを形成し、互助輸送の取組を実施。
- ・そのほか、紙媒体「チーム本城」ニュースの発行や、自主財源確保のため「本城地区カレンダー」や竹の杖の販売などに取り組んでいる。



まちづくり協議会「チーム本城」事務局 河野 様

事例発表④

延岡市北川町家田地区

「北川湿原を守る取組が集落も守る」

- ・家田地区と隣の川坂地区に広がる湿原を北川湿原といい、絶滅危惧種の植物や昆虫が多く棲んでいる。
- ・平成9年台風19号による大洪水を契機に河川激甚災害対策特別緊急事業が行われ、その結果、北川湿原の環境が湿地から乾燥に移行していったため、自然再生事業により湿地環境の再生保全が必要となった。
- ・こうした中、平成22年、家田地区の住民で「家田の自然を守る会」が発足。現在も集落の住民40名が集う。
- ・守る会を中心に、湿原周辺の草刈りや外来植物の駆除などを行ったり、地区の住民総出で野焼きも行っている。



家田の自然を守る会 会長 岩佐 様

意見交換会

基調講演・事例発表者に登壇していただき、会場参加型の意見交換会を実施しました。

意見交換会では、宮崎大学の桑野教授のゼミ生も加わり、テーブルごとに自己紹介や地域の課題等について話す時間では、各テーブルにおいて、活発な意見交換や交流がされていました。

意見交換会の最後にはテーブルごとに発表があり、「地域の課題は担い手不足。短期的な人材確保が大事」、「行政との連携不足」、「行政だけではカバーできない部分を担ってもらう人の発掘が必要」といった意見が出されました。

最後までご参加いただきありがとうございました。



参加者の声

個人の感想です

- ・地域に帰り、地域の人々や仲間に還元できる内容でとても良かった。
- ・ボリュームあふれる内容で1日楽しむことができた。
- ・県内の人々が集まり交流ができたことが良かった。
- ・大変有意義な研修でした。交流会も時間が足りないくらい盛り上がった。
- ・感動を得ることができ、自分のエネルギーとなりました。地域に帰ったら皆んなと分かち合いたいです。
- ・発表者の方とセッションできる意見交換会が良かった。
- ・様々な事例を知ることができ、自分の地域でも活かせる内容で大変勉強になった。

◎開催時期や場所等は未定ですが、来年度も開催予定ですので、奮ってご参加ください！

※開催時期等が決定しましたら県ホームページに掲載します。

「地域の将来についての話し合い」を始めませんか？ ～ひなたまちづくり応援シートの活用～

ひなた
まちづくり
応援シート
とは？

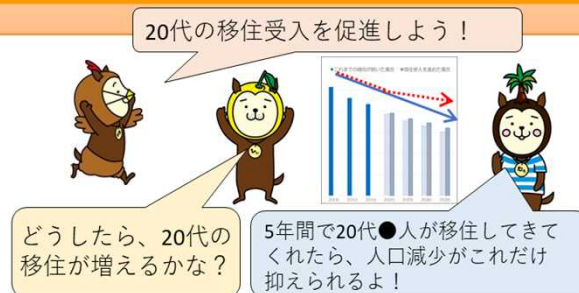
①基本分析・将来推計機能

地域人口の構造、将来人口推計などを
“見える化”する機能



②移住受入シュミレーション機能

地域に移住者を受け入れた場合の地域の将来
人口推計の変化を“見える化”する機能



③地域分析機能

地域の課題解決や活性化のヒントとなる地域の「強み」や「特徴」を“見える化”する機能



ひなた
まちづくり
応援シートの
使い方



話し合い(ワークショップ)の様子

10年後の人口...
こんなに減るの...?

今やるべきことは？
自分たちでできることは？
行政の力が必要なことは？

地元で将来も
守りたいものは
何だろう。

目標ができた。
まずは〇〇から
始めよう！



椎葉村小崎地区

三股町梶山小学校区

門川町三ヶ瀬地区

話し合いをしてみたい！という地域がございましたら、まずはお住まいの市町村へご相談ください。

「住み慣れた地域に安心して暮らし続けるために」話し合いを行いました！

「この地域で暮らし続けたい」を叶えるため、3ページでご紹介した「ひなたまちづくり応援シート」を活用して、地域の課題や取組について話し合いを行った2地区の様子をご紹介します。

高原町後川内地区

高原町後川内地区は、人口減少や高齢化による担い手不足が顕在化する中、いかにして地域を維持していくか検討するため、5回にわたり話し合いを実施しました。住民全体で協力して考えていく必要があること（課題）について意見を出し合い、今後解決に向けて検討を進めていくものとして、「地域の奉仕活動の見直し」、「地区役員の役割の見直し」、「住民ボランティアによる移動（買物）支援」、「小中学校の跡地利用活用」、「獣害対策としてのワナの設置」が選ばれました。今後、これらの課題を解決していくため、組織の設立についても検討しながら話し合いを継続することとしています。



高千穂町中川登地区

高千穂町中川登地区では、高齢化が進行する中においても、これまで実施してきた活動（田んぼアートや農地保全）を継続していくため、5回にわたり話し合いを実施しました。今後検討を進めていく取組として、「草刈りやイベント時に中川登地区のファンの方の協力を得る（準公民館員制度）」と「農村RMOの設立」が選ばれました。「農村RMOの設立」については、周辺の地区の意向を確認する必要があることから、中川登地区と周辺の地区で構成する協議会の中で話し合う予定としています。



開催地区募集中

未来のために私たちは何ができるのだろう。
田舎の不便さや課題もたくさんあるけれど、
みんなが安心して暮らせる地域でありつづけたい！
まちづくりのアイデアや将来への不安など、一緒に語り合しましょう！

ひなた集楽だよりでは、住民みんなが集まって楽しみながら行っている活動を、読者が住む集落や地域で活動をする「たより」（きっかけ、てがかり）にしてほしいという願いを込めています。

【発行・お問い合わせ】

宮崎県総合政策部

中山間・地域政策課

電話 0985-26-7036

FAX 0985-26-7353